



一宮町長
馬淵 昌也

現在町の収入源として、重みを増しているものに、ふるさと納税があります。これは、正確にいうと寄付金にあたります。自治体に、「ふるさと納税」という名目で寄付を行うと、自分の払うべき所得税や住民税の算定で優遇を受けることができる、という制度です。

ご存知のように、ふるさと納税をされる方々の注目的は、寄付金に対する返礼品です。この返礼品が豪華になりすぎて、総務省が制限をかけたことなども、ニュースなどで報道されました。人気のある返礼品を持つ自治体では、ふるさと納税の額はうなぎのぼりに増え、隣村長生村では、海産物とお米を中心に、7億もの寄付があると伺っています。

一宮町のふるさと納税も、順調に伸びており、年に1億を超える金額となっております。返礼品費3割と、事務費など2割、約5割の必要経費を除くと、だいたい半分5千万ほどが純粋な寄付金となります。町税は伸びるにしてもそれほど劇的に増えませんが、ふるさと納税は、大きな財政的支えとなるわけです。

ふるさと納税を増やすには、二つの

ポイントがあります。一つは、魅力ある返礼品をそろえること、もうひとつは、情報発信です。一宮町では、全国的に人気の高い海産物や牛肉はないものの、いくつかの返礼品は、たいへん人気が高くなっています。町の皆さまには、返礼品としてふさわしいものを、さらにご提供いただければと存じます。返礼品は、皆さまの売り上げ拡大にもつながります。アイデアのご提供でも結構ですので、ご協力ください。情報発信については、11月より紹介サイトを増やし、早速その効果が現れています。今後も拡充を図ってゆきます。

また、これは長生村の村長さんに教えて頂いたのですが、高額のご寄付をいただいた方には、町長からお礼のお電話を差し上げるようにしております。これは好評で、引き続きのご寄付につながるようです。

「ふるさと納税」については、制度としての問題を指摘する向きもありますが、目下、各自治体にとって、もっとも頼りになる財政補完の施策です。今後更にも拡充を図ってまいります。皆さまのご協力をお願いいたします。